

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第8回
議事要旨**

1. 日時 平成15年5月23日(金) 14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 水谷副委員長, 相澤委員, 倉島委員, 小森委員, 柴田委員,
関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 長谷川委員, 松岡委員, 山崎委員

4. 会議の概要

(1) 第2回中間発表に向けての作業について

イ. 第2回言い換え対象58語中で, 重要な問題を含んでいると思われる7語を取り上げ, 集中的に検討していくこととした。

ロ. 第2回中間発表までの日程及び作業手順について検討し, 6月30日(月)の第9回委員会で中間発表原案の検討を行い, 7月18日(金)の第10回委員会で中間発表案を確定させて, 8月5日(火)に第2回中間発表を行うこととした。

(2) 会議での主な意見

重要と思われる語について

イ. 「ノーマライゼーション」

ノーマライゼーションは, 非常に強い思想を持った言葉で, 専門家からは安易に言い換えて欲しくないという意見がある。

この言葉は, キャッチフレーズ的に使われ, いわゆる専門用語から一般用語に踏み出し始めているために, 理解度が非常に低い言葉だと思われる。それを言い換えることにより一般語にするというのが, この委員会でやることなのか, 福祉の専門家がやることなのか考える必要がある。外来語委員会としては, 「このような語は使えない」「使ったら伝わらない」というところでとどめておいても良いのではないか。

発表する前に, その分野の専門家に意見を聞いた上で, 再度検討してはどうか。今回の言い換え対象語以外にもこうした専門用語はたくさんあると思う。特殊な分野の言葉の言い換え語を, いくら作っても実際に使ってもらえないと仕方がないので, それぞれの分野の専門家を巻き込んで言い換え語を作っていくのが有効ではないか。

この委員会で専門用語を扱うことについては, 今は専門用語も新聞やテレビなどを通じて茶の間に入ることの多い時代なので, 専門用語ということを知の上で扱っていいと思う。専門家の意見を聞くのはいいが, 経験的には答えが出てこないことがあるので, この委員会で言い換え提案してもいいと思う。「ノーマライゼーション」のまま出すより, 分かる人が増える方がいいのではないかと思う。

専門家同士が使うのは差し支えないわけだが, 普通の人に分かってもらう時にどうするかということが大事な点である。

ロ. 「アイデンティティ」

「アイデンティティ」は, 厳密に言うと社会学の専門用語で, 「自己同一性」というようなことで使っているのではないか。そういう意味で使っている人には, 「自己認識」では概念が違うと言われかねない。

心理学の専門家でも, 「自己同一性」が適訳だとは思っていないようだ。この委員会がいい提案をしたら採用してくれるのではないか。

「自己認識」では, ちょっと意味がずれるのではないか, 今まである概念に造語の意味も入れて, 「自我認識」ではどうか。

「ノーマライゼーション」より言い換えが必要だと思うが, 訳の分からない言

葉として広まっているため、本当の意味を一対一で対応させるような時期は、もう過ぎてしまったのではないか。「自己認識」だけでなく、他の場面でも使えるように広げた提案をすることによって、本来の「アイデンティティ」が何であるかが定着するのではないか。

文化審議会国語分科会で「日本人のアイデンティティ」という言葉が問題になったのは、この言葉が難しいというよりも、この言葉が内に含んでいる思想的な問題が出てきたために、平たく言い換えた形で表現しようとしたようだ。日本語のアイデンティティの意味範囲を確定する方が先決かと思う。

ハ．「グローバル」、「グローバリゼーション」

日本語の中で「グローバル」と「ワールド」を使い分ける基準が、何処にあるのか明確であれば、使い分けの方が良いと思う。しかし、明確ではないと思うので、わざわざ新しい言葉に踏み出して提案していく価値があるかどうか疑問に思う。

「グローバル」や「グローブ」と言うと、丸い地球を思い浮かべる。そのまま「地球」というふうにしてもいいのではないか。

「世界」は人間がいる範囲ではないか。「世界中」というのは太平洋の真ん中や南極は入っていなかったと思う。人間がいると国ができて、国境ができてということになってしまうが、そういうことを避けたい、つまり「ボーダーレス」、地球全体でという意識で「グローバル」が使われる。理科系の方の感じ方もあるかも知れないが、「地球規模」、「地球規模化」でいいのではないか。

ニ．「ユビキタス」

「時空自在」は楽しい印象を与え、語感もいいし頭韻を踏んでいる。形容詞としても使え、さらに複合語も作ることができるので良いと思う。多分コンピュータ関係やIT関係以外に使われることは少ないと思うので、このくらい限定的な意味にしても良いのではないか。

英語の「ubiquitous」は、いろいろなところで使うので、コンピュータに限らない。

「遍在」は、「情報の遍在」と言った場合、偏って情報があることと間違うので、放送では使えない。

「ユビキタス」は、カッコよさの語感から使われだしていると思われるので、それに代わるものとして「時空自在」は、わりにカッコいいので、受け入れられるかもしれない。

ホ．「オンライン」、「データベース」

両方ともこのまま定着する方向にあるのではないか。

「データ」「ベース」「オン」「ライン」という言葉の一つ一つの意味を分かっている人は多いのではないか。それが組み合わせられているから、受け入れられたのではないか。「接続中」と言ったときに、何が頭に浮かぶかという、必ずしも「コンピュータの」「IT関係の」ということにならないのではないか。そこへいくと「オンライン」というと、すぐに意味や状況が頭に浮かぶので、このままでよいのではないか。

「オンライン」「データベース」ともこのままでいいのではないか。ただ、以前、新聞でカタカナ語の連載をしていたときに、特にコンピュータ用語に関しては高齢者の方から反響があったようである。我々が言い換え提案をすることによって、「オンライン」にしても「データベース」にしても、辞書を見ても分からない人たちに便利に使ってもらえるのではないか。

学生に「オンライン」の言い換え語を考えさせたところ、言い換え語が出てこない。コンピュータ関係だけでなく、電話まで頭に思い浮かべるようである。オンラインは、何か新しい言葉として動いているように思えるので、言い換えても意味がずれるのではないか。

広報紙等に「オンラインでサービスを提供します」と載ったときに、分からない人がある可能性がある。

このような場合は、わざわざ市役所や区役所に出向かなくても、インターネットで申し込めるということである。インターネットに慣れていない層には非常に分かりにくいサービスなので、単なる言い換えではなくて、自治体サービスなどでは、気をつける必要があるという意味で説明しなければならないのではないか。

新しい社会状況が出てきたことに伴っているから、その社会状況に乗っていない人には分からない。どうやって言い換えるかではなく、やはり説明が必要ではないか。「オンラインでサービスを行っております」と言わないで、「コンピュータ上でもお申し込みができます」とコンピュータを持っていない人に対しては、このような説明をつけると親切である。

コンピュータ関係の言葉で、しっかりと日本語として普及している言葉はあるのか。アプリケーション、レファレンス、マニュアルなど、全部カタカナでしっかり普及しているとも思えない。

その他の意見

この委員会でうまい言い換え語を提案しても、発信元が使用しなければ、意味がない。新聞では事業名は事業名として使わざるをえないので、発信元と連携したやり方ができないものか。

言い換え語を作って、発信元で発信してもらえれば、マスコミでも使える。そうでないとマスコミは、カタカナ語を使わざるをえない。

日本新聞協会の総会で、大阪を中心に前回の中間発表をどう扱っているか、将来どうするかをアンケート形式で28社とったデータが提供された。その中で、将来も外来語を使っていくかどうかについては、例えば「セキュリティ」は、28社中17社がこのまま使っていくと表明している。このように、ほとんど半分かりの言葉はそのまま使っていくと新聞社は判断している。一般の方にも外来語をこのまま使っても構わないという余地を残しておく必要があるのではないか。

以上